

平成 29 年 12 月 7 日付【水道産業新聞】
 施設協、管理協、管路協、水コン協
 <戦略的広報テーマに講演会>
 曾小川下水協顧問、山田水管理局长が登壇

戦略的広報テーマに講演会

施設協、管理協、管路協、水コン協



200人が参加した講演会

曾小川下水協顧問、山田水管理局长が登壇

下水道4団体（日本下水道施設協、日本下水道施設管理協、全国上下水道コンサルタント協会、日本下水道管路管理協）は11月6日、東京都港区の発明会館で講演会「下水道界からみた下水道広報・戦略的下水道広報」を開いた。4団体の会員企業や国、地方自治体などの関係者約200人が参加。下水道広報プラットフォーム（GKP）が協力、司会進行を2015年度ミス日本「水の天使」の柴田美奈さんが務め、講演とパネルディスカッションを通して、利用者に対する下水道への理解を深めてもらうために求められる発信のあり方について、共に考える機会とした。

主催者を代表し、あい 道、広報というテーマをさうした野村喜一・水コン協会長は、「私自身、講演が楽しみで本当にわくわくしている。下水道が喜ぶ話をしてほしい」と話した。

講演の部では、曾小川久貴・日本下水道協顧問、山田邦博・国土交通省水管理・国土保全局長が登壇。



曾小川顧問



野村会長



山田局長

曾小川顧問は、「私の履歴書」と題し、長年下水道事業に関わってきた自身の経験を振り返った。この中で、国の下水道部長を務めた時期は、世紀をまたぐ大きな節目にあたり、矢張り早に、中央省庁の再編、小泉内閣の組織なき構造改革、三位一体改革などが打ち出され、下水道事業に対しても国庫補助の大幅な削減案が浮上したが、最近も同じ事態が起きていくことに、国会議員など

さまざまな方面に働きかける必要があるとした。最後に、「たすきを繋ぐ、次の世代には、下水道管理・運営の時代を見据えた費用負担原則を確立し、また、官と民が両輪となって下水道事業の管理・運営体制を確立してほしい」と結んだ。

山田局長は、「水と広報」と題し、自身が主に関わってきた河川事業と比較しながら、下水道の特長を生かした広報のあり方について、「大きな河川やダムは住民から遠く、現場を見てもらうことが難しい。一方で下水道は、身近にありすぎるがゆえに気づかれにくく、河川と同様に『溢れた、老朽化した』といったネガティブな面に報道が偏りやすい。震災時に『ゲリラ豪雨時に道路の水を排水するのが下水道。身近で役に立っている姿を現場で見せ、なかったらどうなるのかと問いか

自身は、どうすれば若者の心に響くのか。SNSなどの話題に華せることも一案では」と概括した。

「これからの下水道広報について」をテーマに議論した。

「キーワード」として、下水道は「日常的に『身近なところ』にあって、『意外なすこい力』を持つことをPRすれば効果的なのではないか。『情熱を持って頑張っている人』を取り上げる」と話した。さらには、

「就職を考える若者だけでなく、子どもを持つ母親に向けた呼びかけも大切と考えを述べた。パネルディスカッションでは、パネリストを曾小川顧問、山田局長、柴田さん、コーディネーターを頼あゆみ・内閣官房

まち・ひと・しごと創生本部事務局次長が務め、「これからの下水道広報について」をテーマに議論した。